

Contents Guard USB Memory Ver6

2015/9 Release

Ver5とVer6の違い

旧バージョンVer4,Ver5をお使いの皆さまへ

設定上の大きな違い

Ver6の設定管理ソフトUsbManangeは、ハードディスクから実行して下さい。
USBメモリ内のUsbManageをデスクトップなどにコピーして、USBメモリの
UsbManageを削除してから設定して下さい。

※従来どおりUSBメモリ内からの実行も可能ですが、新機能の空き容量
をゼロにする機能が使えません。

旧バージョンとの違い

コンテンツガードUSBメモリVer6はWindows10対応になりました。旧バージョンをご利用の場合でWindows10でご利用になる場合は、バージョンアップが必要です。

Ver4～5からVer6への更新は無料です。
Ver6は自動更新機能が付きました。

UsbManage



Ver5 → Ver6 主な違い

1. ハードディスクからのUsbManage起動（変更）

Ver6のUsbManageはハードディスクから起動して下さい。USBメモリ内から起動したときは、従来と同じ動きをします。USBメモリ以外から起動したときは、USBメモリを検索し最初に見つかったUSBメモリを設定対象とします。この機能は、非保護領域をゼロにする機能を実現する為に設けられた機能です。

2. 非保護領域の空き容量をゼロにする。（新機能）

非保護領域の容量が3M(Ver5)→10M(Ver6)に拡張されました。空き容量が増えた為、空き容量をゼロにする機能が追加されました。書き込みできる空き容量がありませんのでウィルス混入のリスクがありません。

3. UsbManageの管理パスワードミス回数（新機能）

UsbManageのパスワードミス回数を最大20回としました。回数を超えるとパソコンの再起動までパスワード入力がキャンセルされます。

4. コピー許可フォルダ（変更）

コピー許可フォルダ(Document)へUSBメモリ内からのファイル起動を禁止しました。書き込み禁止が設定されていない場合は、移動が可能だった為、設定によってはコピーされる可能性があります。これを禁止しました。

5. 日付の厳密なチェック(新機能)

閲覧期限などを設定している場合は、インターネットでの日付を検査する仕組みを設けました。

6. 許可プログラムのカテゴリ選択(新機能)

許可プログラム一覧の種類が増えました。これに伴い設定がわかりやすいように各プログラム種類を動画、OFFICE系、CADなどカテゴリで分類して表示しました。

7. 製品情報、著作権表示(新機能)

製品情報や著作権、サポート情報などができるようになりました。

8. Windows10対応(新機能)

XP/Vista/7/8/8.1に加え新しくWindows10に対応しました。

9. 自動更新機能(新機能)

従来は更新プログラムで手動でバージョンアップが必要でしたが、Ver6では自動更新機能が付きました。自動更新は任意設定です。

10. UsbRemove/UsbBack/Usb安全な取り外し

旧バージョンではUSBメモリが利用中になっていると仕様で動作が中止になっていました。Ver6付属のUsbRemove/UsbBack/Usb安全な取り外し/ではUSBメモリが利用中の場合は利用中のソフトを終了して強制的に取り外しができるようにしました。
※USBメモリのコンテンツを開いていた状態で実行すると使っているソフトが強制終了しますのでご注意ください。

旧バージョンとの違い

Ver5 → Ver6 主な違い

11. スリープ機能に対応

Windows8以降のスリープ機能(高速スタートアップ機能)に対応。保護領域を表示した状態でスリープ状態になった場合、保護機能の一部が働かなかった為、Ver5ではスリープ復帰で非保護領域を表示していました。Ver6では保護領域でスリープした場合、そのままの状態ですべて復元されるようになりました。

※保護領域表示中にログオフした時やユーザーを切り替えた時は従来どおり非保護領域を表示します。

12. 常時接続運用

パソコンの電源投入時にコンテンツガードUSBメモリが挿入されていた場合は、自動起動して保護領域を表示するようになりました。この機能を利用するにはUsbQuickStartのセットアップが必要です。

13. コンテンツガードUSB3.0モデルの対応(新規)

コンテンツガードUSBメモリの通常品はUSB2.0規格ですが、オーダーメイドでUSB3.0モデルを提供する事ができます。USB3.0モデルでは一部のパソコンで規格どおりに作られていないUSB3.0が採用されていた場合、USB3.0ポートでは動作ができませんでした。これらのパソコンの場合でもレスキューコードを入力する事によって動作ができるようになりました。レスキューコード発行はサポート対応になります。規格外の部品はETRON社の初期型USBホストコントローラーEtron EJ168で一部のマザーボードで採用されていました。ファームウェアの更新で改善はできますがUSB認識の時間が極端に遅くなります。

現在のETRON社チップでは問題ありません。

14. コピー&ペーストの緩和(変更)

クリップボードの禁止を行っている場合でも、スクリーンコピーが許可されている場合は画像のみクリップボードの利用を許可できるように変更

15. Microsoft Edge対応(新規)

Windows10標準ブラウザであるMicrosoft Edgeに対応しました。Microsoft Edgeには、表示しているホームページにメモやマーカを書き込み、画像として共有する機能があります。これら機能をつかったコピー方法に対応しました。また、Microsoft Edgeの印刷機能は従来の印刷とは違った方法で印刷を行いますのでVer5の印刷禁止機能では禁止ができません。印刷禁止を選択している状態でMicrosoft Edgeが許可ソフトになっている場合は、全てのソフトの印刷ができなくなります。Microsoft Edgeが選ばれていない場合は、従来通り許可ソフトに登録されているソフトだけが印刷禁止になります。

16. シフトキーを押しながらUsbStart実行する(変更)

シフトキーを押しながらUsbStartを実行すると以下の動作を行います。

- ・UsbQuickStartの自動実行機能をキャンセルする。
- ・UsbQuickStartのセットアップ画面を表示する。
- ・バージョン検査を即時に行う。(通常は30日間隔でチェックします)

17. SnippingToolの利用を禁止した。

18. その他 不具合対応

- ・Windowsログイン名が漢字の場合、一部の漢字を利用していた場合、Windowsの処理が正しく働かないケースがありUsbStartでエラーが表示されていた。これに対応しました。
- ・エラー番号が表示される場合、できるだけエラーメッセージで表示するように修正
- ・WindowsXP付属のwindows picture and fax viewerの不具合に対応

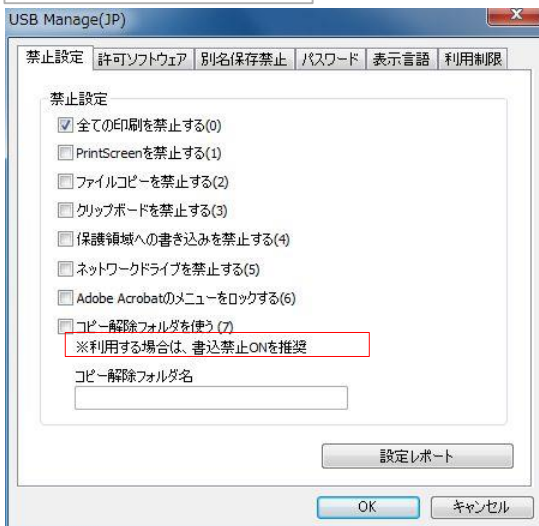
旧バージョンとの違い

UsbManage



管理設定ソフトがデスクトップなどUSBメモリ外でも実行ができるようになりました。
Cドライブにコピーしてご利用下さい。従来通りにUSBメモリ内からの設定も可能です。

Ver5 Windows7操作画面



■コピー許可フォルダの改善

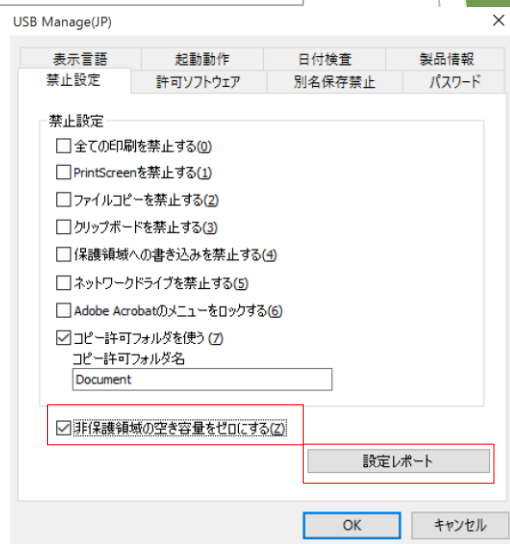
コピー許可フォルダを利用する場合は、書き込み禁止を推奨でしたが、この制約が無くなりました。書き込みを許可している場合、USBメモリ内の移動が禁止ではありませんのでコピー許可フォルダに移動後コピーが可能でした。この為、コピー許可フォルダを使う場合は、書き込み禁止を設定する必要がありました。新しいバージョンでは、コピー許可フォルダへのファイル移動は禁止されました。

■非保護領域を空き容量ゼロにする

非保護領域にウイルスなどが混入しないように空き容量をゼロにする機能が追加になりました。保護領域は書き込み禁止にする事ができましたが、非保護領域は設定ができませんでした。新しいバージョンでは非保護領域の空き容量をゼロにする機能が追加されました。UsbメモリにUsbManageを付属させない場合は、UsbManageをデスクトップなどから実行します。

空き容量をゼロにしてからUSBメモリ内のUsbManageを削除すると、UsbManage容量分の空き容量が発生します。

Ver6 Windows10操作画面



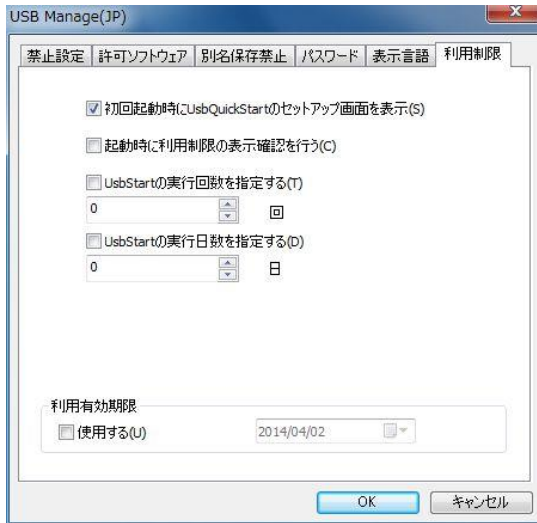
■設定レポート機能

設定レポート機能が詳しくなりました。設定レポートとは、パスワード情報や設定内容をテキストファイル (UsbSetting.txt) に保存する機能です。

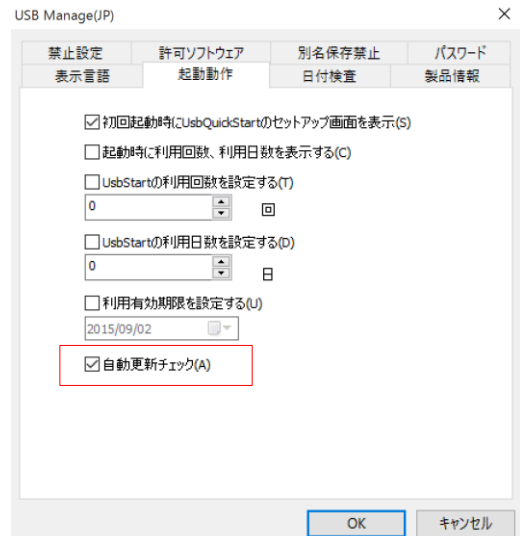
管理パスワードを忘れてしまうと再設定ができません。また、トラブル時にSetting.txtというファイルをサポートまでメール添付などで送っていただきますとトラブル対応が早くなります。

旧バージョンとの違い UsbManage

Ver5 Windows7操作画面



Ver6 Windows10操作画面



1. タブメニュー名が「利用制限」→「起動動作」に変更になりました。
2. USBメモリスステムの自動更新機能が追加になりました。新しいバージョンが公開されている場合は、バージョンアップのお知らせがあり自動更新ができます。自動更新チェックは30日間隔です。

■自動更新機能

自動更新チェックがある場合は、新しいバージョンが公開されましたら利用者の操作で新しいバージョンへ自動更新ができます。自動更新機能は、Windows10が公開されましたが2015/8月現在ではOS自体の動作が安定しておらず、WindowsUPDATEが頻繁に行われている事や今後公開されるサービスパックを適用すると利用できなくなる等。障害などが発生する可能性があるからです。

お客様コンテンツの対応OSがWindows8.1までの場合は、自動更新はOFFにして下さい。

自動更新のON/OFFはUsbManageの設定なので管理者様側の設定になります。利用者様でこの設定は変更できません。

旧バージョンとの違い UsbManage

Ver5 Windows7操作画面



Ver6 Windows10操作画面



1. 選択リストのプログラムが増えました。これに伴い、カテゴリ選択になり選びやすくなりました。
2. 選択リストの中に「USB保守ツール」→ UsbManageがあります。許可リストにUsbManageが設定されていると保護領域表示中でもUsbManageを使う事ができます。また、配布後に利用できるUsbUPDATEなどコンテンツ差し替えプログラムもご提供予定です。

コンテンツガードUSBメモリでは、コンテンツが保存されている保護領域をアクセスするソフトの事前登録が必要です。これは、アクセス制限を設けセキュリティを無視するようなソフトの利用を排除する為の仕様です。例えば、PDFを表示する場合は、通常Acrobat Readerが利用されますがPDF Readerの中にはPDFセキュリティを無視するソフトがあります。また、変換ソフトではPDFをWORDなど他の形式に変換するソフトがあります。

Windows10では通常のデスクトップモードとタブレットモードがあります。タブレットモードでは、WindowsStoreアプリが利用できます。

WindowsStoreではExcle MobilやWord Mobileなどがフリーソフトとして公開されています。Windows10ではタブレットモードのソフトでもデスクトップアプリのように動作するので違和感がありません。

Ver5

Excelを許可ソフトとして登録した場合 Excel2003/2007/2010/2013/ (2016)が利用できません。Excle Mobail では利用できません。

Ver6

Excelを許可ソフトとして登録した場合 Excel2003/2007/2010/2013/ (2016)に加え Excle Mobail が利用できるようになります。同じようにVer6でWordを選択した場合は、WordMobail、PowerPointを選択した場合は、PowerPoint Mobailが利用可能になります。

Ver5からVer6へバージョンアップした場合 Excle Mobail、Word Mobail、PowerPoint Mobailに対応させる場合は、再選択が必要です。

旧バージョンとの違い

UsbManage

管理用パスワード入力 (JP)

パスワード(P)

表示(M)

OK キャンセル

2

パスワードミス回数（最大20回でロックされます）

UsbManage 管理パスワードのリトライ回数を最大20回としました。管理パスワードのミス回数は左下に表示されます。回数はパスワード設定画面の不適合ロック回数で変更可能です。管理パスワードを規定回数（最大20回）間違えるとパソコンが再起動されるまで許可されません。プログラムを使ったパスワード解析に対応しました。

■日付検査(新機能)

閲覧期限、利用日数などを設定した場合、Ver5ではパソコンの内蔵タイマーの日付をチェックしていましたが改ざんが可能なので、厳密なチェックが必要な場合は、インターネットのNTPという仕組みを使った厳密チェックができるようになりました。

NTP検査を必須とした場合、インターネット接続が必須条件になりますのでご注意ください。

NTP Serverは代表的なサーバーを設定されています。通常は変更の必要はありませんが外国等の利用が前提の場合は、その国のNTP Serverを設定した方が応答が早い場合があります。通信インフラが整っていない国でのご利用は変更して下さい。

USB Manage (JP)

| 禁止設定 | 許可ソフトウェア | 別名保存禁止 | パスワード |
|------|----------|--------|-------|
| 表示言語 | 起動動作 | 日付検査 | 製品情報 |

インターネットを使った厳密な日付検査を行う(NTP検査)(M)

NTP Server1 (InterNet Time Server1)

NTP Server2 (InterNet Time Server2)

NTP検査を必須とする(M)

テスト

OK キャンセル

旧バージョンとの違い

UsbManage

USB Manage(JP) ×

| 禁止設定 | 許可ソフトウェア | 別名保存禁止 | パスワード |
|------|----------|--------|-------|
| 表示言語 | 起動動作 | 日付検査 | 製品情報 |

著作権者
Abroad Systems, inc

コンテンツ名
コンテンツガードUSBメモリ

連絡先
http://www.abroad-sys.com
E-Mail info@abroad-sys.com

起動時に製品情報を表示する(D)

OK キャンセル

■ 製品情報の登録

製品や著作者情報を登録します。

有料コンテンツなどを販売する場合は、商品名やサポート情報を登録できます。登録した情報は、UsbStart実行時に表示する事もできます。

計画されている改善点、新製品 新ツールが登場予定

管理者ツールのご提供（無料）

■UsbUPDATE Ver5,Ver6で利用可能 順次公開予定

配布後のUSBメモリでコンテンツを差し替えたい、追加コンテンツを配布したいこれらのニーズに対応するようにUsbUPDATEを開発中です。

UsbUPDATEは書き込み禁止のUSBメモリへ強制書き込みをするツールです。配布コンテンツを暗号化圧縮しUsbUPDATEと元で配布すると利用者がコンテンツを更新する事ができます。更新コンテンツはUSBメモリへ展開しないと見ることはできません。専用の圧縮ソフトと共に提供予定です。

■SaftyCopy Ver5,Ver6で利用可能 順次公開予定

数十本程度のUSBメモリを作成するときに、連続したコピーとコピー後の検証機能をもっているコピーツールです。Windows標準コピーは、コピーしたあとに検証を行っていません。稀なタイミングで正しくコピーできていない場合があります。SaftyCopyはコピー後の検証を行います。また、同じ操作を繰り返す事ができますので操作ミスがありません。

■VerUP2 2015/10

コンテンツガードUSBメモリの更新プログラムです。利用許諾や製品情報を修正して再配布可能です。コンテンツガードUSBメモリVer6の自動更新システムは利用許諾の表示がありません。お客様コンテンツを販売している場合は、VerUPを使うと、お客様の利用許諾を表示、承認する事ができます。オリジナルの更新プログラムとして提供可能です。

USBケース、外装パッケージ

■キャップレスタイプのUSBメモリ発売

キャップを無くしてしまうというご相談を頂いておりましたので、キャップレスタイプのコンテンツガードUSBメモリをご提供予定です。オートリターン機構をもっており、ノック式でUSB端子を出してパソコンから取り外すと自動的にひっこむオートリターン機能があります。※名入れでのケース変更であれば2015/9月以降対応可能です。

■パッケージ

オリジナルパッケージを作りやすいように、小型のプリスターパックを提供予定です。プリスター（水泡）とは包装パッケージの種類で薬や小物家電で使われている透明プラスチック製の店頭ぶら下げ用のパッケージです。単価が安く商品を衝撃から守る事ができるので広く普及しています。オリジナルケース作成を相談される場合が多いのですが型代が30～50万円ほどかかり初期コストが高いので小型でアレンジのできるプリスターパックをご提供予定です。※サンプル品をご希望の場合はお問い合わせ下さい。

■セキュアHDD（仮称）

情報漏えい防止用のセキュリティーハードディスクを開発中。コンテンツガードUSBメモリのコピーガード機能を応用した製品です。大切なデータを保存するとコピーガードがかかります。セキュアHDDに保存したデータは、セキュリティー機能が働き、ハッキング行為、暴露ウィルスの感染でのネット流失や遠隔操作での情報漏えいなどのリスクを回避できます。WEBメール添付やUSBメモリへのコピーも禁止されていますので大切なデータを簡単に守る事ができます。データをコピーする場合にはパスワードで一時的にコピー解除ができます。特定のパソコンのみ利用可能など、高価な情報セキュリティーシステムと同等な処理をハードディスク単体機能で提供するものです。

※開発中で2016年度初旬公開